

はてなの缶詰

MRI検査の時に金属を持ち込めないのはなぜ？

強い磁力と電波を使って
検査をおこなうMRI

MRIは「Magnetic Resonance Imaging」の略で、「磁気共鳴画像」と呼ばれています。

MRI検査とは、強い磁場が発生しているトンネルの中に身体を入れて、磁力と電波を使って身体の内部を画像化する検査のこと。いろいろな角度から身体の断面を画像化でき、脳や脊髄、内臓、筋肉、関節、血管などの詳細な情報を得ることがができます。

レントゲンやCTのようにX線を使わないため、放射線による被ばくの心配はありませんが、患者さんの安全を確保するため、検査前にさまざまなお願いをしています。



身に付けている
貴金属を外す理由

MRIは強力な“磁力”を有しているため、時計やネックレスなどの貴金属を身に付けていると、引きつけられたり、壊れたりすることがあります。また電子レンジなどが出している“電磁波”も使用するため、金属が熱をもち火傷することも。そのため、MRIを受診する患者さんには、貴金属を身に付けていないことの確認を必ず行い、安全確保に努めています。

身体の中や
皮膚の金属も要注意

貴金属を外していただくこと以外にも、患者さんをお願いしていることがあります。例えば手術歴がある患者さんの場合、体内にコイルやステントなどの金属が留置されていることがあるため、過去の手術について詳しく伺っています。また、化粧品や入れ墨には金属が含まれていることもあるため、検査当日は化粧を控えてもらったり入れ墨を申告してもらったりしています。

MRI検査では、患者さんのご協力により、日々の安全が保たれています。
検査について分からないことがあれば、当院の放射線技師にご相談ください。